

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-------------------------|------------|--|
| 事業所番号 | 3610123667 | | |
| 法人名 | 医療法人 道志社 リハビリテーション大神子病院 | | |
| 事業所名 | グループホーム大神子 | | |
| 所在地 | 徳島県徳島市大原町大神子16番地2 | | |
| 自己評価作成日 | 平成28年10月1日 | 評価結果市町村受理日 | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/ |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会 | | |
| 所在地 | 徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階 | | |
| 訪問調査日 | 平成28年11月9日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は自然あふれる日の峰大神子広域公園の近くに位置し、四季を肌で感じることができます。明るい雰囲気の中で隣にある保育所の園児との交流や、季節ごとの行事に参加し、楽しく過ごしています。リハビリ体操などのレクリエーションを通し体力維持に努め、ボランティアによる歌や踊りを楽しむ機会もあり、笑顔あふれる毎日過ごしています。毎月、避難訓練を行い防災対策にも力を入れております。母体法人の医療機関と連携を図り、個々の体調管理に留意、緊急時にも対応できる体制が整っており、入居者、家族、職員の安心と安全に繋がっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、周囲を山や海岸に囲まれた自然豊かな環境のなかに位置しており、四季の移り変わりを眺めたり、自然の光や風を感じつつ散歩をしたりすることができます。職員は、事業所の理念である“これからもずっと自分らしく暮らしていけるためのお手伝い”をつねに意識し、利用者本位の支援を実践している。事業所では、家族会や家族の来訪時に、意見や要望を聞くよう努めており、本人や家族の意向や希望を大切にしている。出された意見等は職員間で情報共有を行いつつ、運営面や日々のケアに反映している。同一法人の運営する医療機関や事業所が隣接しており、行事やイベントに相互に参加することで、利用者間で交流を深めるなど、利用者の楽しみの機会となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当する項目に○印 |
|---|---|--|---|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 朝礼時には理念、基本方針を全員で唱和し、全職員が実践につなげるよう取り組んでいる | 事業所では、地域密着型サービスの意義を踏まえた、事業所独自の理念を掲げている。職員間で、理念について話し合うなどしている。また、朝礼時に理念を唱和したり、名札ケースを活用して理念を記し携帯したりして、つねに支援の基本として捉えつつ、質の向上に取り組んでいる。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 散歩に出掛けるなどし、地域住民に積極的に話しかけ、また地域施設のカフェに参加するなどし交流を深めている | 事業所では、地域のイベントや行事に参加するなどして交流を図っている。利用者と職員で日常的に散歩へ出かけており、地域の人たちと挨拶を交わしたり、話をしたりしている。また、近隣の認知症カフェにも参加している。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 毎月、テーマを決め勉強会を行い認知症に対する知識を深め、毎月利用者の作品を新聞広告に載せたり、年1回は作品展に出品したりと地域の方々へ働きかけている | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に1回運営推進会議を行い、家族、地域住民、地域包括支援センター、有識者に意見を聞き、また家族様アンケート、勉強会の報告を行うなどし質の向上に努めている | 2か月に1回、運営推進会議を開催している。出席者から積極的に意見や助言を得ており、双方向の意見交換を行っている。出された意見等は全職員間で話し、日々のサービスに反映している。事業所では、幅広い意見等を得ることができるよう、警察署や消防署員にも出席を働きかけている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 入居状況の報告を月初めに行い、2ヶ月に1回の運営推進会議の議事録、ホーム便りなどを送付し協力関係が継続出来るよう体制作りを図っている。 | 毎月、市担当者に報告書等を提出するなどして、助言や相談を得ることができるようになっている。また、電話等でも、事業所のサービス内容や利用者の状況等を報告するなどしている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 安全、安心な生活が送れるよう、利用者個々の精神面や行動を把握するとともに、希望に応じ玄関のロック式施錠を解除し付き添いのもと外へ出られるようにしている | 全職員が身体拘束の弊害等について正しく理解するよう努めており、利用者一人ひとりが閉塞感なく暮らすことができるよう支援している。事業所の地理的環境から安全確保のため玄関を施錠しているが、利用者の希望や状態に応じて、開錠の時間帯を設けるなどの工夫を行っている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 勉強会を行い、全職員にアンケート調査するなどし、虐待に対する認識を深め、虐待防止を徹底している | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|--|-------------------|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 後見人制度を利用している入居者は1名である。成年後見制度について資料配布するなどし、全職員が情報を共有している | | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 話し合いを行い、利用者、家族の気持ちを重視し、契約時、疑問点など残らないよう十分な説明のもと締結。解約についても理解が得られるよう説明する時間を、十分に設けている。 | | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ご意見箱を玄関に設置、年1回のアンケート調査を行い意見を聞く、また家族会開催時にも広く意見を求めている。 | 年3回、事業所では家族会を開催し、利用者や家族が意見を出しあったり、話し合ったりしやすい、雰囲気づくりに努めている。職員は、家族の来訪時に利用者の暮らしぶりや心身の状態を伝えるとともに、家族の意向や希望を聞いている。アンケート調査も行っている。 | | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 2ヶ月に1回の全体会議で広く意見を聞き、個別にも相談に応じ、意見提案を運営に活かせるよう取り組んでいる | 事業所では、全体会議を開催し、職員の気づきやケアに関する課題や提案等を聞いている。管理者は、職員一人ひとりの意見や相談に耳を傾け、相談や助言を行っている。出された提案等は運営面に反映するようにしている。 | | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員の勤務状況、実績を把握、また、環境による勤務時間も考慮し研修会への参加が出来るような職場環境を整えている | | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 毎月、スタッフによる勉強会を行い認知症の知識や対応について、また法人内外の研修に参加し報告をし伝達している | | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 研修参加や協会の委員を努めることで広く意見交流の場へ参加し、他グループホームの運営推進会議に出席、認知症カフェにも利用者と共に出かけ、運営推進会議にも出席していただき意見を頂いている | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 困り事、不安な事が伝えやすい環境を作り、時間をかけお話を聞き安心していただけるよう努めている | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | サービス担当者会議への参加を呼びかけご意見や要望に添えるよう努め、不安なことは時間をかけゆっくりとお話を聞き安心していただけるよう配慮している | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人、家族が必要としていることを見極め、本人に合ったサービスが提供できるように努めている | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 「その人らしさ」を大切に、生きて来られた人生を尊重し出来る事探しを行い、感謝の気持ちを伝え関係性を築いている | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族の来訪時には生活状況の報告を行い毎月はじめには、生活状況を一緒に行事参加時の笑顔の写真を同封し、各行事への参加に招待し同じ時を楽しんで頂ける場を作っている | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 行事へ参加していただく機会を設け、面会者や外部からの電話、また家族や友人への電話など取次も行い静かな環境のもとでお話出来るよう配慮している | 事業所では、利用者や家族から馴染みの人や場所等の話を聞くなどして、本人の友人や知人、親戚などを把握しつつ、家族の協力を得るなどして、馴染みの関係を継続することができるよう支援している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者同士、談笑したり様々な事が一緒に出来る雰囲気を作るよう環境整備にも気を配っている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 入院を余儀なくされた入居者にも、拭き続きお見舞いにかがいがい、好みやケアについて詳しく情報提供を行っている | | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 家族の協力も得、生活歴、趣味、既往歴の情報収集を行い、本人の「出来る事」「その人らしさ」を大切にプラン作成しケアを提供している | 日頃から職員は、利用者との関わりの中で、言葉やしぐさなどから、本人の意向や思いの把握に努めている。また、家族から話を聞くなどして、利用者一人ひとりの生活歴や趣味等を把握し、コミュニケーションを図りつつ意向を把握するようにしている。 | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | センター方式を活用し、本人や家族から生活歴等を聞き、全職員で情報の共有を行っている | | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 朝・夕のバイタルチェックを行い心身の状態の観察を行い、表情や顔色、行動観察を行い絶え間ないケアが出来るよう申し送りをしている。 | | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | アセスメント、モニタリングを行い担当者、計画作成担当者、時に家族も交えカンファレンスを行い本人、家族の意向に沿った計画の見直しを行っている | 介護計画書の作成にあたっては、本人や家族の意見や要望を聞いている。職員は、アセスメントとモニタリングを繰り返し行いながら、利用者の心身の状態の変化に沿った計画を作成している。 | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 生活状況、心身の変化など日々の変化も見逃さず記録を行い、それに添って申し送りを行い情報共有を図っている | | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 利用者や家族の要望に応じ買い物外出や外食、外泊時の自宅までのお迎えを行うなど、利用者の状態に合った対応をしている | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 運営推進会議などを通じて、市役所及び地域の方の協力を得、安心、安全な生活ができるよう支援している | | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 母体法人に医療機関へ月1回の定期受診、それ以外にも体調の変化に応じての受診への付き添い、また必要に応じた他科受診も家族や職員が付き添っている | 契約時の段階で、本人や家族と話し合っ、協力医療機関を主治医としている。事業所では、定期受診や体調変化時の受診等により、利用者一人ひとりの健康状態の把握に努めている。専門科の受診は、家族の協力を得て実施しており、職員が同行することもある。 | | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 管理者、計画作成担当者が看護師であり健康管理や体調の変化の早期発見に努め、職員からの相談にも応じている | | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院後もお見舞いに行き、身体状況の確認、医師や看護師からの情報収集を行い家族への情報提供も行っている | | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入所時より、利用者、家族に十分に説明を行い、意向を尊重し医療機関と連携を図っている。また看取りが必要となった場合の内容説明を行い同意を得ている | 契約時の段階で、本人と家族に重度化した場合の事業所の対応を指針に基づいて話し、共有するようにしている。利用者の心身状況の変化に応じて、関係者間で再確認している。協力医療機関等とも連携を図り、入院などが必要になった場合にも継続的に支援するようにしている。 | | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 勉強会を行い、急変時対応の初期対応を身につけ伝達し実践力の向上に努めている | | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 毎月、利用者も参加し避難訓練を行い、地震、火事、水害の際の行動を確認し、敷地内の他事業所とも合同訓練を行うなど協力体制を作っている | 月1回、利用者と職員は、日中や夜間を想定した避難訓練を行っている。水害や地震時の避難行動についても確認している。法人の防災担当者や夜間の警備員の参加も得ているが、避難経路図が事務所のみでの掲示となっている。災害時のための備蓄や備品を整えている。 | 地震等の災害は、いつ、どのようなときに発生するか予測が付きにくい。発災後の迅速な対応の実現に向けた対応策の具体化が望まれる。今後は、運営推進会議を活用するなどし、避難行動や協力関係の構築について意見を得るなどして検討されたい。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|---|-------------------|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 入居者1人ひとりの気持ち、行動を大切に尊厳を尊重した言葉かけをするよう常に話し合っている | 職員は、本人の尊厳やプライバシーを傷つけることのないよう、声かけやケアに配慮している。職員間で対応を徹底しつつ、確認し合っている。 | | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 入居者が思いや意向を伝えやすい雰囲気を作り意思決定が出来るよう、話しかけを行い支援を行っている | | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 1人ひとりへの出来る事を探し、本人のペースに合った提供を行い、達成感を味わっていただけるよう支援する | | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 起床時は、ご自分で服を選んでもらう、化粧する方は化粧の出来る環境を作るなど意欲の向上に努めている | | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事の準備や片付け、洗い物、お盆拭きなどお手伝いしていただけるよう入居者に声かけをし一緒に行っている | 事業所では、法人の厨房で作った食事を温め直して、盛り付けている。ペースト食では視覚から食欲が減退することのないよう、キューブ状にしたり、普通食を添えたりして、食事を楽しむことができるよう工夫している。職員は、利用者と談笑しつつさりげない支援を行っている。利用者や職員でおやつ作りを行っており、一人ひとりの力を活かして役割を担ってもらっている。 | | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 個別記録に食事、水分量を記録し全体を通して不足している場合は、栄養補助飲料の提供などを行い職員間での情報共有も図っている | | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 口腔ケアの必要性を説明し毎食後、歯磨き誘導を行い清潔保持に務めている | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 入居者1人ひとりの排泄パターンを把握し本人に合ったパットや下着の選択を行い、排泄表を用い声かけ、誘導を行っている | 職員は、利用者の排泄パターンや習慣を把握しており、一人ひとりに応じた誘導や声かけを行っている。利用者ができるだけトイレで排泄することができるよう支援している。事業所では、トイレに温めた清拭用ペーパーを用意するなどして、温度変化による違和感にも配慮した支援を心がけている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排便記録表を毎日確認し、水分補給や体操、個々に合った下剤の調節などを行い便秘予防に努めている | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 体調を考慮し、拒否があった場合は時間を置いて声かけし、それでも拒否があった場合は翌日に変更するなど本人の意向に添っている。季節を感じてもらえるよう菖蒲湯やゆず湯も楽しんでもらっている | 本人の希望に合わせた入浴支援を行っている。事業所では、季節感を感じることができるよう、ゆず湯やしょうぶ湯などを取り入れるなど、入浴を楽しむことができるよう工夫している。職員は、本人の尊厳を守りつつ入浴支援を行っている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 日々、穏やかに過ごしていただけるようコミュニケーションを図り、体調の変化を見逃さず安眠できるよう環境を整えている | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 1人ひとりの病状、内服薬の用法、用量についても把握し準備時は氏名、日付の声出し確認を行い、ダブルチェックを行っている。症状に変化が見られた場合は速やかに看護師、薬剤師の指示を仰いでいる | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 本人の生活歴の中から「出来る事」を見つけ、お手伝いや趣味の塗り絵、書き写し、散歩などにお誘いし、花を観たりお世話をしたりと楽しみを持っていただいている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 利用者の要望に応じ買い物外出や季節の行事にお誘いし、出かけるなど楽しまれている。誕生日には少し遠出や外食をしたりとドライブも楽しまれている | 気候の良い日には、利用者と職員で近隣を散歩している。利用者一人ひとりの希望に応じて、買い物などにも出かけている。利用者の誕生日には、本人と話し合うなどして遠方へ出かけることもある。事業所では、年間計画を立てるなどして初詣や季節の花見、遠足などへ出かけることができるよう支援している。車いすを利用している方も一緒に出かけている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 家族、本人の了解を得、預かったお金は金庫にて保管し、買い物や外出した際にお支払いしていただいている | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 入居者の希望に応じて電話連絡の支援を行い、携帯電話を持っておられる方は正しい使用方法を指導している。また家族からの手紙などは一緒に読み、喜びを分かち合っている | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 玄関には季節の花を飾る、食堂など共同空間へは季節の飾り付けをするなど季節感を出した明るい雰囲気を作っている。温度調節にも配慮し適切な温度管理を行っている。テレビや音楽の音量にも配慮している。 | 共有空間は清潔に保っており、明るく居心地のよい空間となっている。利用者と職員で作成した作品を廊下やリビングに飾っており、季節を感じることもできる空間となっている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 共同の場、食堂にはソファやマッサージ器を設置し自由に行き来出来、気のあった入居者と談笑したり、ビデオを楽しんだり出来る雰囲気となっている | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居者の慣れ親しんだ家具や椅子、小物、写真などを用意していただき本人の時間が過ごせるように工夫している。本人が気持ちよく過ごせるよう清掃も毎日行っている | 事業所では、利用者の使い慣れた馴染みのタンスやテーブルを持ち込んでもらっている。また、ぬいぐるみや写真などを飾り、自分の好みに合った居室づくりを支援している。職員は、本人や家族と相談したうえで、本人本位の暮らしを支援している。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 一人ひとりの体調に配慮し利用者の生活のペースを乱さぬよう、安全で安心した生活が送れるよう支援している | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 自己評価 | 自己評価 |
|--------------------|-----|--|--|--|------|
| | | | 嘉壽 実践状況 | 福壽 実践状況 | 実践状況 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 朝礼時には理念、基本方針を全員で唱和し、全職員が実践につなげるよう取り組んでいる | 朝礼時には理念、基本方針を全員で唱和し、全職員が実践につなげるよう取り組んでいる。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 散歩に出掛けるなどし、地域住民に積極的に話しかけ、また地域施設のカフェに参加するなどし交流を深めている | 散歩に出掛けるなどし、地域住民に積極的に話しかけ、また地域施設のカフェに参加するなどし交流を深めている | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 毎月、テーマを決め勉強会を行い認知症に対する知識を深め、毎月利用者の作品を新聞広告に載せたり、年1回は作品展に出品したりと地域の方々へ働きかけている | 毎月、テーマを決め勉強会を行い認知症に対する知識を深め、毎月利用者の作品を新聞広告に載せたり、年1回は作品展に出品したりと地域の方々へ働きかけている | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に一回運営推進会議を行い、家族、地域住民、地域包括支援センター、有識者に意見を聞き、また家族様アンケート、勉強会の報告を行うなどし質の向上に努めている | 2ヶ月に一回運営推進会議を行い、家族、地域住民、地域包括支援センター、有識者に意見を聞き、また家族様アンケート、勉強会の報告を行うなどし質の向上に努めている | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 入居状況の報告を月初めに行い、2ヶ月に1回の運営推進会議の議事録、ホーム便りなどを送付し協力関係が継続出来るよう体制作りを図っている。 | 入居状況の報告を月初めに行い、2ヶ月に1回の運営推進会議の議事録、ホーム便りなどを送付し協力関係が継続出来るよう体制作りを図っている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 安全、安心な生活が送れるよう、利用者個々の精神面や行動を把握するとともに、希望に応じ玄関のロック式施錠を解除し付き添いのもと外へ出られるようにしている | 安全、安心な生活が送れるよう、利用者個々の精神面や行動を把握するとともに、希望に応じ玄関のロック式施錠を解除し付き添いのもと外へ出られるようにしている | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 勉強会を行い、全職員にアンケート調査するなどし、虐待に対する認識を深め、虐待防止を徹底している | 勉強会を行い、全職員にアンケート調査するなどし、虐待に対する認識を深め、虐待防止を徹底している | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 自己評価 | 自己評価 |
|----|-----|--|---|---|------|
| | | | 嘉壽 実践状況 | 福壽 実践状況 | 実践状況 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 後見人制度を利用している入居者は1名である。成年後見制度について資料配布するなどし、全職員が情報を共有している | 後見人制度を利用している入居者は1名である。成年後見制度について資料配布するなどし、全職員が情報を共有している | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 話し合いを行い、利用者、家族の気持ちを重視し、契約時、疑問点など残らないよう十分な説明のもと締結。解約についても理解が得られるよう説明する時間を、十分に設けている。 | 話し合いを行い、利用者、家族の気持ちを重視し、契約時、疑問点など残らないよう十分な説明のもと締結。解約についても理解が得られるよう説明する時間を、十分に設けている。 | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 話し合いを行い、利用者、家族の気持ちを重視し、契約時、疑問点など残らないよう十分な説明のもと締結。解約についても理解が得られるよう説明する時間を、十分に設けている。 | 話し合いを行い、利用者、家族の気持ちを重視し、契約時、疑問点など残らないよう十分な説明のもと締結。解約についても理解が得られるよう説明する時間を、十分に設けている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 2ヶ月に一回の全体会議で広く意見を聞き、個別にも相談に応じ、意見提案を運営に活かせるよう取り組んでいる | 2ヶ月に一回の全体会議で広く意見を聞き、個別にも相談に応じ、意見提案を運営に活かせるよう取り組んでいる | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員の勤務状況、実績を把握、また、環境による勤務時間も考慮し研修会への参加が出来るような職場環境を整えている | 職員の勤務状況、実績を把握、また、環境による勤務時間も考慮し研修会への参加が出来るような職場環境を整えている | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 毎月、スタッフによる勉強会を行い認知症の知識や対応について、また法人内外の研修に参加し報告をし伝達している | 毎月、スタッフによる勉強会を行い認知症の知識や対応について、また法人内外の研修に参加し報告をし伝達している | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 研修参加や協会の委員を努めることで広く意見交流の場へ参加し、他グループホームの運営推進会議に出席、認知症カフェにも利用者と共に出かけ、運営推進会議にも出席していただき意見を頂いている | 研修参加や協会の委員を努めることで広く意見交流の場へ参加し、他グループホームの運営推進会議に出席、認知症カフェにも利用者と共に出かけ、運営推進会議にも出席していただき意見を頂いている | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 嘉壽 | 自己評価 | 福壽 | 自己評価 | |
|------------------------------|-----|--|---|----|---|----|------|--|
| | | | 実践状況 | | 実践状況 | | 実践状況 | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 困り事、不安な事が伝えやすい環境を作り、時間をかけお話を聞き安心していただけるよう努めている | | 事前に面談を行い、状況を把握するように努め、コミュニケーションを図り会話の中からも不安要素がないか探っています。 | | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | サービス担当者会議への参加を呼びかけご意見や要望に添えるよう努め、不安なことは時間をかけゆっくりとお話を聞き安心していただけるよう配慮している | | サービス担当者会議への参加を呼びかけご意見や要望に添えるよう努め、事前にご要望を入居者、家族から聞き取りを行っています。 | | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人、家族が必要としていることを見極め、本人に合ったサービスが提供できるように努めている | | 本人、家族が必要としていることを見極め、本人に合ったサービスが提供できるように努めている。またレンタル利用の説明も必要に応じて行っています。 | | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 「その人らしさ」を大切に、生きて来られた人生を尊重し出来る事探しを行い、感謝の気持ちを伝え関係性を築いている | | 本人の得意とすることを探り「その人らしさ」を大切に、生きて来られた人生を尊重し出来る事探しを行い、感謝の気持ちを伝え関係性を築いています | | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族の来訪時には生活状況の報告を行い毎月はじめには、生活状況と一緒に行事参加時の笑顔の写真を同封し、各行事への参加に招待し同じ時を楽しんで頂ける場を作っている | | 家族の来訪時には生活状況の報告を行い毎月はじめには、生活状況と一緒に行事参加時の笑顔の写真を同封し、各行事への参加に招待し同じ時を楽しんで頂ける場を作っている | | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 面会者や外部からの電話、また家族や友人への電話など取次も行い静かな環境のもとでお話出来るよう配慮している | | 面会者や外部からの電話、また家族や友人への電話など取次も行い静かな環境のもとでお話出来るよう配慮している | | | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者同士、談笑したり様々な事が一緒に出来る雰囲気を作れるよう環境整備にも気を配っている | | 利用者同士、談笑したり様々な事が一緒に出来る雰囲気を作れるよう環境整備にも気を配っている | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 嘉壽 | 自己評価 | 福壽 | 自己評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|--|------|----|------|--|
| | | | 実践状況 | | 実践状況 | | 実践状況 | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 入院を余儀なくされた入居者にも、引き続きお見舞いにかがいがい、病棟へは好みやケアについて詳しく情報提供を行っている | 入院を余儀なくされた入居者にも、引き続きお見舞いにかがいがい病棟へは、好みやケアについて詳しく情報提供を行っている | | | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 家族の協力も得、生活歴、趣味、既往歴の情報収集を行い、本人の「出来る事」「その人らしさ」を大切にしたいプランを作成しケアを提供している | 今まで生きてこられた生活歴、趣味、既往歴の情報収集を行い、職員全員が共有し本人の「出来る事」「その人らしさ」を大切にしたいプラン作成し統一したケアを提供している | | | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | センター方式を活用し、本人や家族から生活歴等を聞き、全職員で情報の共有を行っている | センター方式を活用し、本人や家族から生活歴等を聞き、全職員で情報の共有を行っている | | | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 朝・夕のバイタルチェックを行い心身の状態の観察を行い、表情や顔色、行動観察を行い絶え間ないケアが出来るよう申し送りをを行い統一したケアを提供している。 | 朝・夕のバイタルチェックを行い心身の状態の観察を行い、表情や顔色、行動観察を行い絶え間ないケアが出来るよう申し送りをを行い統一したケアを提供している。 | | | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | アセスメント、モニタリングを行い担当者、計画作成担当者、時に家族も交えカンファレンスを行い本人、家族の意向に沿った計画の見直しを行っている | アセスメント、モニタリングを行い担当者、計画作成担当者、時に家族も交えカンファレンスを行い本人、家族の意向に沿った計画の見直しを行っている | | | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 生活状況、心身の変化など日々の変化も見逃さず記録を行い、それに添って申し送りをを行い情報共有を図っている | 生活状況、心身の変化など日々の変化も見逃さず記録を行い、それに添って申し送りをを行い情報共有を図っている | | | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 利用者や家族の要望に応じ買い物外出や外食、外泊時の自宅までのお迎えを行うなど、利用者の状態に合った対応をしている | 利用者や家族の要望に応じ買い物外出や外食、外泊時の自宅までのお迎えを行うなど、利用者の状態に合った対応をしている | | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 自己評価 | 自己評価 |
|----|------|---|---|---|------|
| | | | 嘉壽 実践状況 | 福壽 実践状況 | 実践状況 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 運営推進会議などを通じて、市役所及び地域の方の協力を得、安心、安全な生活が出来るよう支援している | 運営推進会議などを通じて、市役所及び地域の方の協力を得、安心、安全な生活が出来るよう支援している | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 母体法人に医療機関へ月1回の定期受診、それ以外にも体調の変化に応じての受診への付き添い、また必要に応じた他科受診も家族や職員が付き添っている | 母体法人に医療機関へ月1回の定期受診、それ以外にも体調の変化に応じての受診への付き添い、また必要に応じた他科受診も家族や職員が付き添っている | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 管理者が看護師であり健康管理や体調の変化の早期発見に努め、職員からの相談にも応じている | 管理者が看護師であり健康管理や体調の変化の早期発見に努め、職員からの相談にも応じている | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院後もお見舞いに行き、身体状況の確認、医師や看護師からの情報収集を行い家族への情報提供も行っている | 入院後もお見舞いに行き、身体状況の確認、医師や看護師からの情報収集を行い家族への情報提供も行っている | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入所時より、利用者、家族に十分に説明を行い、意向を尊重し医療機関と連携を図っている。また看取りが必要となった場合の内容説明を行い同意を得ている | 入所時より、利用者、家族に十分に説明を行い、意向を尊重し医療機関と連携を図っている。また看取りが必要となった場合の内容説明を行い同意を得ている | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 勉強会を行い、急変時対応の初期対応を身につけられるよう、日ごろからのイメージトレーニングも行い、実践力の向上に努めている | 勉強会を行い、急変時対応の初期対応を身につけられるよう、日ごろからのイメージトレーニングも行い、実践力の向上に努めている | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 毎月、利用者も参加し避難訓練を行い、地震、火事、水害の際の行動を確認し、敷地内の他事業所とも合同訓練を行うなど協力体制を作っている | 毎月、利用者も参加し避難訓練を行い、地震、火事、水害の際の行動を確認し、敷地内の他事業所とも合同訓練を行うなど協力体制を作っている | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 嘉壽 | 自己評価 | 福壽 | 自己評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|--|------|----|------|--|
| | | | 実践状況 | | 実践状況 | | 実践状況 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 入居者1人ひとりの気持ち、行動を大切に尊厳を尊重した言葉かけをするよう常に話し合っている | 入居者1人ひとりの気持ち、行動を大切に尊厳を尊重した言葉かけをするよう常に話し合っている | | | | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 入居者が想いや意向を伝えやすい雰囲気を作り意思決定が出来るよう、話しかけを行い支援を行っている | 入居者が想いや意向を伝えやすい雰囲気を作り意思決定が出来るよう、話しかけを行い支援を行っている | | | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 1人ひとりへの出来る事を探し、本人のペースに合った提供を行い、達成感を味わっていただけるよう支援している。 | 1人ひとりへの出来る事を探し、本人のペースに合った提供を行い、達成感を味わっていただけるよう支援している。 | | | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 起床時は、ご自分で服を選んでもらう、化粧する方は化粧の出来る環境を作るなど意欲の向上に努めている | 起床時は、ご自分で服を選んでもらう、化粧する方は化粧の出来る環境を作るなど意欲の向上に努めている | | | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事の準備や片付け、洗い物、お盆拭きなどお手伝いしていただけるよう入居者に声かけをし一緒に行っている | 食事の準備や片付け、洗い物、お盆拭きなどお手伝いしていただけるよう入居者に声かけをし一緒に行っている | | | | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 個別記録に食事、水分量を記録し全体を通して不足している場合は、栄養補助飲料の提供などを行い職員間での情報共有も図っている。主治医と相談し体調に合わせた水分や食事の提供を行っている。 | 個別記録に食事、水分量を記録し全体を通して不足している場合は、栄養補助飲料の提供などを行い職員間での情報共有も図っている。主治医と相談し体調に合わせた水分や食事の提供を行っている。 | | | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 口腔ケアの必要性を説明し毎食後、歯磨き誘導を行い清潔保持に務めている | 口腔ケアの必要性を説明し毎食後、歯磨き誘導を行い清潔保持に務めている | | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 自己評価 | 自己評価 |
|----|------|---|--|---|------|
| | | | 嘉壽 実践状況 | 福壽 実践状況 | 実践状況 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 入居者1人ひとりの排泄パターンを把握し本人に合ったパットや下着の選択を行い、排泄表を用い声かけ、誘導を行っている | 入居者1人ひとりの排泄パターンを把握し本人に合ったパットや下着の選択を行い、排泄表を用い声かけ、誘導を行っている | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排便記録表を毎日確認し、水分補給や体操、個々に合った下剤の調節などを行い便秘予防に努めている | 排便記録表を毎日確認し、水分補給や体操、個々に合った下剤の調節などを行い便秘予防に努めている | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 体調を考慮し、拒否があった場合は時間を置いて声かけし、それでも拒否があった場合は翌日に変更するなど本人の意向に添っている。季節を感じてもらえるよう菖蒲湯やゆず湯も楽しんでもらっている | 体調を考慮し、拒否があった場合は時間を置いて声かけし、それでも拒否があった場合は翌日に変更するなど本人の意向に添っている。季節を感じてもらえるよう菖蒲湯やゆず湯も楽しんでもらっている | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 日々、穏やかに過ごしていただけるようコミュニケーションを図り、体調の変化を見逃さず安眠できるよう環境を整えている | 日々の状態を見ながら、その時の状態に応じた過ごし方を職員で話し合い、就寝時間も本人のペースに合わせて良眠出来る環境を作っている | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 1人ひとりの病状、内服薬の用法、用量についても把握し準備時は氏名、日付の声出し確認を行い、ダブルチェックを行っている。症状に変化が見られた場合は速やかに看護師、薬剤師の指示を仰いでいる | 薬剤師による居宅医療管理指導のもと、正しい服薬が行われるようダブルチェックを行い確実に服薬していただいています。変化があった場合は速やかに主治医、看護師に報告しています。 | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 本人の生活歴の中から「出来る事」を見つけ、お手伝いや趣味の塗り絵、書き写し、散歩などにお誘いし、花を観たりお世話をしたりと楽しみを持っていただいている。 | 毎日の生活の中で、洗濯物干し、たたむ、掃除、食器洗いなど、できる事をその人に合わせてしていただき、常にねぎらいの言葉をかけできる喜びを感じていただいています。 | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 利用者の要望に応じ買い物外出や季節の行事にお誘いし、出かけるなど楽しませている。誕生日月には少し遠出や外食をしたりとドライブも楽しませている | 利用者の要望に応じ買い物外出や季節の行事にお誘いし、出かけるなど楽しませている。誕生日月には少し遠出や外食をしたりとドライブも楽しませている。散歩を日課とされている方には職員が付き添い天候の許す限り、毎日出かけていただいています。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 自己評価 | 自己評価 |
|----|------|--|---|---|------|
| | | | 嘉壽 実践状況 | 福壽 実践状況 | 実践状況 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 家族、本人の了解を得、預かったお金は金庫にて保管し、買い物や外出した際にお支払いしていただいている | 家族、本人の了解を得、預かったお金は金庫にて保管し、買い物や外出した際にお支払いしていただいている | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 入居者の希望に応じて電話連絡の支援を行い、携帯電話を持っておられる方は正しい使用方法を指導している。また家族からの手紙などは一緒に読み、喜びを分かち合っている | 入居者の希望に応じて電話連絡の支援を行い、携帯電話を持っておられる方は正しい使用方法を指導している。また家族からの手紙などは一緒に読み、喜びを分かち合っている | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 玄関には季節の花を飾る、食堂など共同空間へは季節の飾り付けをするなど季節感を出した明るい雰囲気を作っている。温度調節にも配慮し適切な温度管理を行っている。テレビや音楽の音量にも配慮している。 | 玄関には季節の花を飾る、食堂など共同空間へは季節の飾り付けをするなど季節感を出した明るい雰囲気を作っている。温度調節にも配慮し適切な温度管理を行っている。テレビや音楽の音量にも配慮している。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 共同の場、食堂にはソファやマッサージ器を設置し自由に行き来出来、気のあった入居者と談笑したり、ビデオを楽しんだり出来る雰囲気となっている | 共同の場、食堂にはソファやマッサージ器を設置し自由に行き来出来、気のあった入居者と談笑したり、ビデオを楽しんだり出来る雰囲気となっている | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居者の慣れ親しんだ家具や椅子、小物、写真などを用意していただき本人の時間が過ごせるように工夫している。本人が気持ちよく過ごせるよう清掃も毎日行っている | 入居者の慣れ親しんだ家具や椅子、小物、写真などを用意していただき本人の時間が過ごせるように工夫している。本人が気持ちよく過ごせるよう清掃も毎日行っている | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 一人ひとりの体調に配慮し利用者の生活のペースを乱さぬよう、安全で安心した生活が送れるよう支援している | 風呂の入口にはのれんをかけ、トイレも大きく表示し、落し紙いれを別に設置するなど、入居者の記憶に合わせた環境設定をしています。 | |